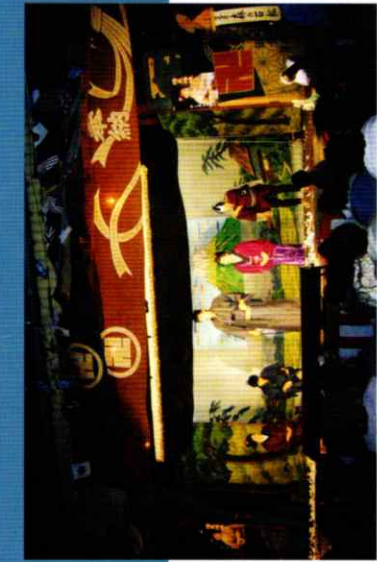
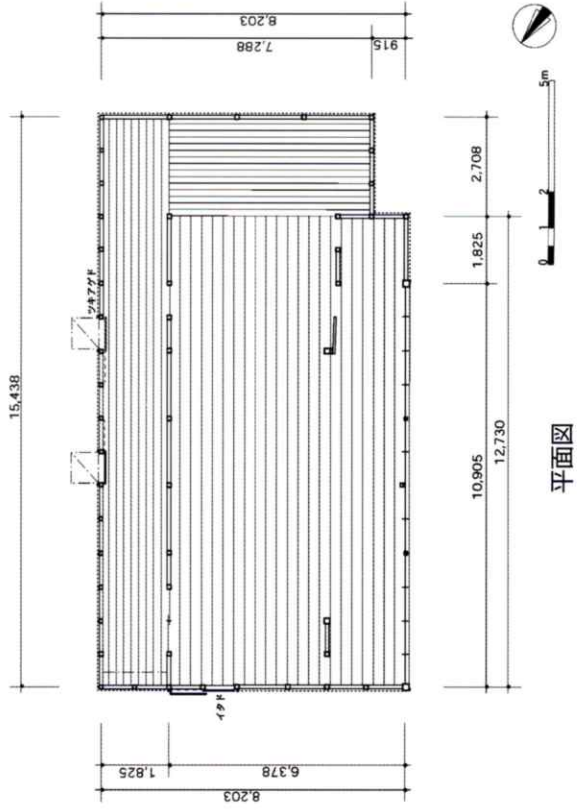




構造様式：木造平屋建 東妻寄棟造、西妻切妻造
平入 東側面及び背面に下屋庇量さ下ろし
棧瓦葺 外壁トタン張
建築年代：昭和2年築



平面図

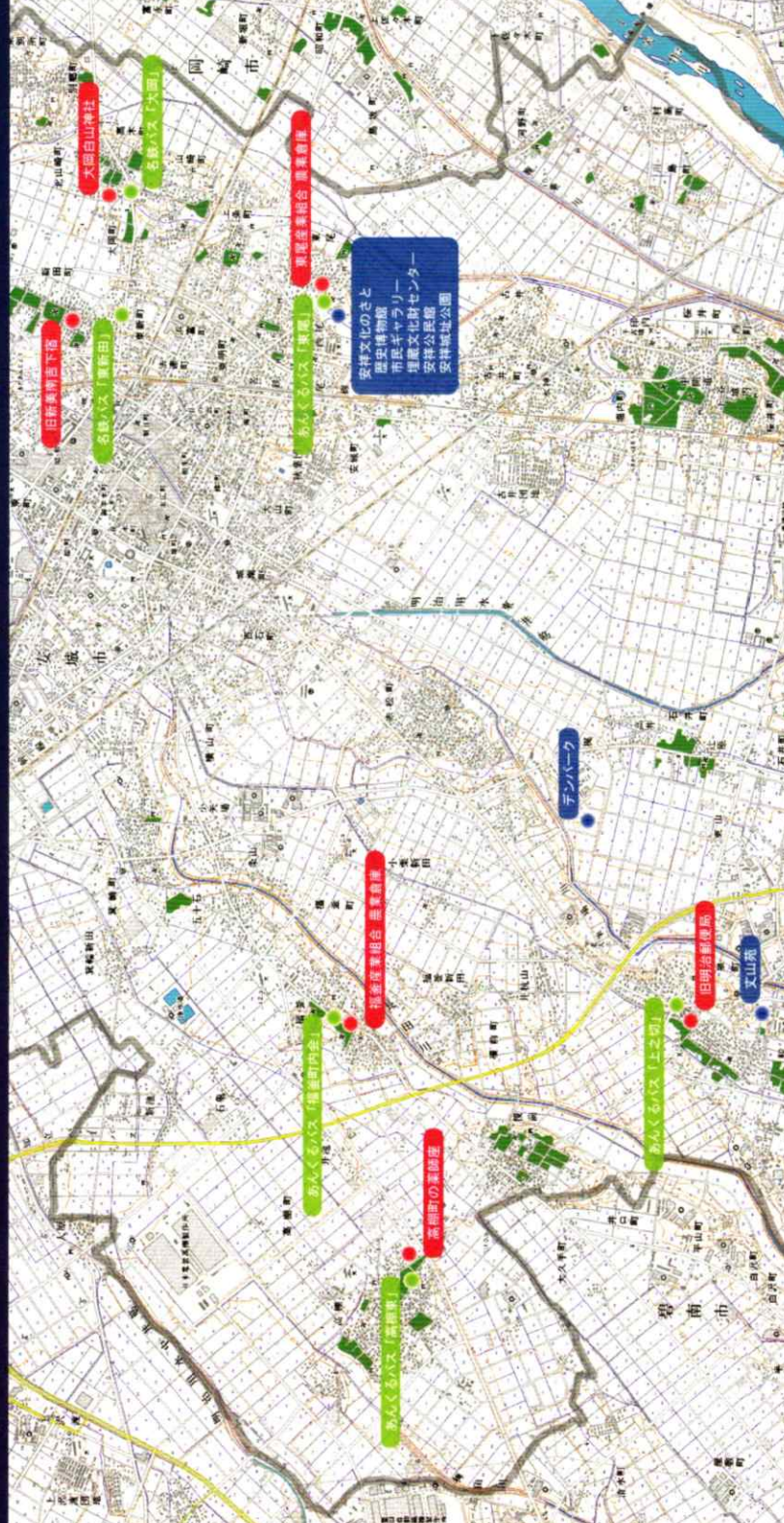
薬師座では、隣接する薬師堂にちなんだ「八日薬師」(旧暦の10月8日、新暦の12月初め)の余興として、明治中頃から農村歌舞伎が演じられるようになりました。

このような農村舞台は、神社祭礼と結びついて神社の境内に建てられることが多いです。東濃から西三河にかけては、全国的にも農村舞台が多い地域で、農村における娯楽の流行に伴い、幕末から戦前に至るまで途切れることなく建てられていました。

しかし、戦争を境にそれらのほとんどは廃絶の一途を辿り、戦後に娯楽が多様化したこともあり、次々と姿を消していきます。その中、高棚町では現在も「森の石松」などの歌舞伎が演じられています。

建造物探訪

これらの建造物は個人や私的団体の所有物です。見学の際は、所有者の承諾を得たり、ごみは持ち帰るなどマナーを守るようお願いいたします。



安城市歴史的建造物NEWS Vol.1

平成20年10月1日発行 初版
平成21年12月25日発行 第2刷
平成26年3月30日発行 第3刷

編集・発行 安城市教育委員会 生涯学習部文化財課文化財係
〒446-0026 安城市安城町城堀30番
TEL(0566)77-4477 FAX(0566)77-6600

※掲載されている建造物に関する写真等の当時の資料をお持ちの方は、右記までご連絡いただければ幸いです。

安城市

歴史的建造物 NEWS

Vol.1

- | | |
|----------|--------------|
| 大岡白山神社 | 本殿 |
| 旧明治郵便局 | 局舎及び官舎 |
| 法行寺 | 庫裏 |
| 岩月家住宅 | |
| 旧平貴産業組合 | 農業倉庫2棟 |
| 旧二本木産業組合 | 農業倉庫及び事務所 |
| 旧新田産業組合 | 農業倉庫 |
| 旧赤松産業組合 | 農業倉庫及び共同集出荷場 |
| 願力寺 | |
| 旧新美南吉下宿先 | |
| 高棚町の薬師座 | |





▲ 局舎

有形文化財 建造物

きゅうめい し けう びん せよく かん しや
旧明治郵便局 局舎及び官舎

局舎 構造様式：木造平屋建 寄棟造 棧瓦葺

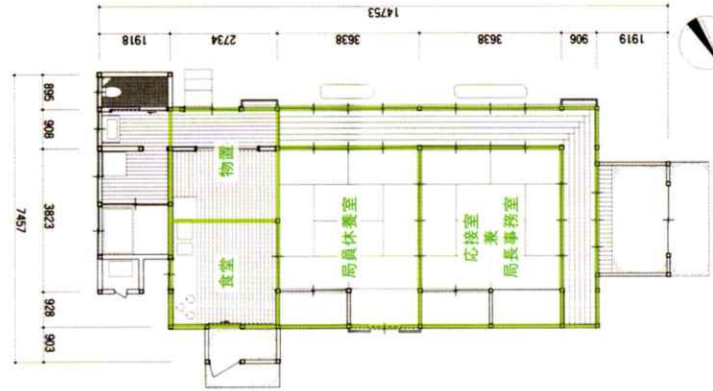
官舎 構造様式：木造平屋建 西面寄棟造、東面切妻造 棧瓦葺

明治政府は篤志家の要望に対して、局舎の提供及び局員の給料の負担を条件に、郵便局の開局を許可する三等郵便局制度を設け、全国に統一された郵便網を構築していました。明治郵便局も、明治44年(1911)にこの条件の下、旧明治村で開局しました。

局舎は梁間4間、桁行5間で、外観などに洋風の意匠を採用しながらも、小屋組(屋根を支える屋根裏の骨組)には和小屋を用いています。また、鬼瓦には千字の文様が施されています。平屋建ての小規模な郵便局舎ですが、古い郵便局舎が少ない県下において、年代が明らかな上に当初の構成が想定できる貴重な建物です。

官舎は、近代の数寄屋趣味を加味した正統的な書院の構えを示す建築です。

二つの建物は、局舎と官舎がそろって残っている点で注目されます。



官舎 平面図

局舎 平面図

(現状の平面図に当時の部屋割を重ねてあります)



▲ 官舎

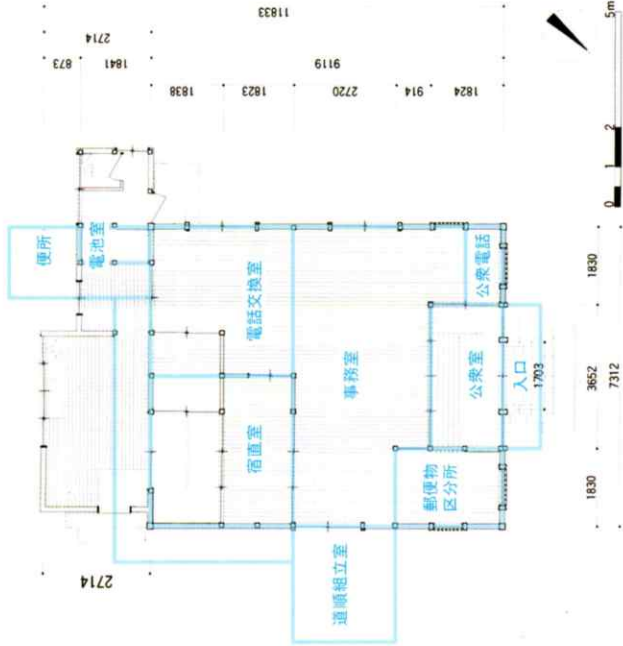


昭和10年(1935)に電話交換業務を開始しました。この白黒の写真は、昭和42年(1967)の閉局間際に撮られたものです。

元々は道路に面していましたが、昭和55年(1980)に後ろに曳き家されました。局舎の道順組立室は、業務拡大に伴い増築されたもので、曳き家の際に解体されました。

また、現在は薄紫色のベシキが塗られています。当初は水色であったことが、痕跡調査等から判明しています。

官舎は、年末年始の繁忙期には、臨時の作業場としても利用されていたそうです。



官舎 平面図

局舎 平面図

(現状の平面図に当時の部屋割を重ねてあります)

新市指定文化財

官舎」と「大岡白山神社 本殿」の2件が、新に市指定文化財建造物は8件になりました。



有形文化財 建造物

おお おか かく ざん じん じや ほん でん
大岡白山神社 本殿

構造様式：木造平屋建 三間社流造 銅板葺

大岡白山神社は養老2年(718)の創建と伝えられ、はじめ大岡明神と称していたとされています。天文2年(1533)に、徳川家康の祖父である松平清康が社殿を造営しましたが、天文9年(1540)に織田軍の兵火により焼失したと伝えられています。その後、永禄10年(1567)に家康により再建され、慶長9年(1604)に、社領138石を寄進されています。桁行3間、梁間2間の三間社流造で、昭和11年頃に檜皮葺から銅板葺に変更されました。

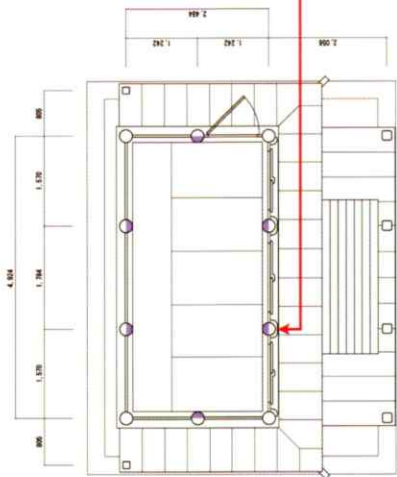
地元の有志により編纂された郷土史『大岡の郷』には、永禄10年に家康が再建した際の棟札(棟上げ、建前の時に、工事の由緒、年月日、建築主または工匠などを記して棟木などに打ち付ける札)の存在が記されています。部材の形状、絵様(梁などに彫られている文様)や柱の面取りの仕方などから、小屋組や屋根など一部を除き当時以来のものと判断されます。当初の部材の残り具合からすると、安城市最古の建物で、流造の本殿としては、県内で7番目の古さになります。現在は本殿と拜殿の間に渡殿が増築されていますが、建築当初、本殿は独立して建てていました。



身舎柱の床下部分の内側(平面図の薄紫色の部分の床下)は、断面が十六角形に面取りをされています。このように表からは見えないうところにも、細かい仕上げが施されていることは室町時代以前の特徴で、江戸時代になると、八角形以下になっていくようです。

木鼻と呼ばれる梁などの端が柱の外側に突出部分(桁行立面図の薄紫色部分)の形状も年代判定の資料になります。

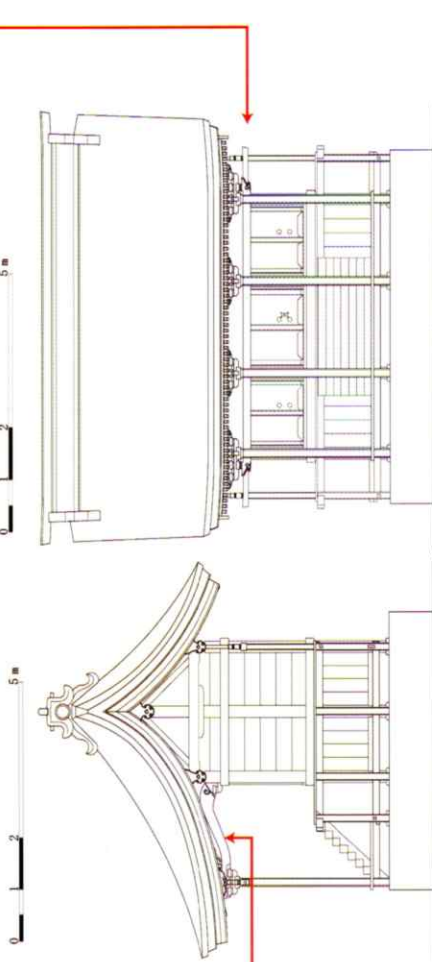
このように中央に挟れがある形状は室町時代に見られる特徴の一つです。時代が下ると、象や獅子、植物文様をかたどったものに変化していきます。



平面図



絵様の彫りが浅く、装飾が簡素なこと、また、渦(梁間立面図の濃い紫色の部分)が正円に近いことは、建築年代が古い特長の一つです。



梁間 立面図

桁行 立面図

建造物

緊急調査

開発に伴い、取り壊されていく歴史的な建造物の記録を行っています。



▲ 西妻面

法行寺 庫裏 (東町)

構造様式：木造平屋建 切妻造 葺瓦葺

▲ 玄関部分の小屋根

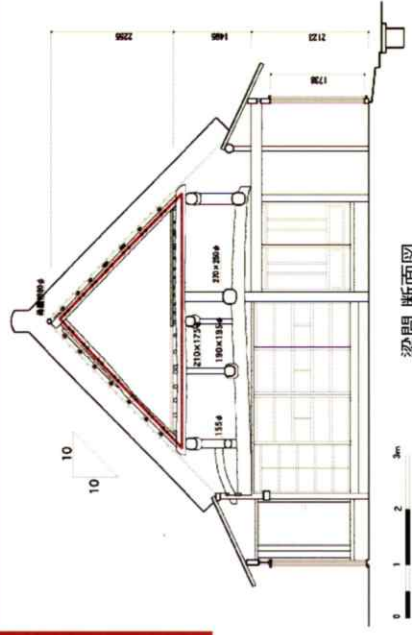
法行寺は浄土真宗大谷派の寺院で、天元2年(979)に法泉坊徳玄により創立され、応仁元年(1467)の抱心の時、天台宗から真宗に改宗したと伝えられています。現在の本堂は、文化年間(1804～1817)に第13代法遵により再建されたといわれ、山門も同時期に建てられたと伝えられています。

今回調査を行った庫裏は、当時の資料から、その後数十年を経て建てられた模様です。水回りを中心に、後に様々な改築はされていたものの、東側の玄関部分は天井を張らない化粧屋根となっており、豪壮な小屋の梁組を仰ぎ見ることができました。



岩月家住宅 (今本町)

構造様式：木造平屋建 入母屋造 トタン葺
建築年代：19世紀初頭、明治年間移築



梁間 断面図



叉首組

旧東海道沿いに建っていた建物で、明治年間に、近くの村の庄屋宅を移築したものと伝えられています。

移築に際して、西側が切り縮められているようですが、天井や叉首組(梁の上面掌型に材を組んだ構造)などが土間周りの豪壮さや土間周りの豪壮さなど、近世の古民家の面影を伝える建物でした。また、近年はトタンが被せられていましたが、元は茅葺でした。

旧産業組合

合関連施設

産業組合は明治33年(1900)の産業組合法の公布により、全国の市町村で組織されました。市域では明治35年(1902)の小川産業組合に始まり、昭和7年(1932)には26組合を数えました。

各産業組合は事務所、農業倉庫などを建設し、組合員に対して物品の共同購買・販売事業や預貯金・融資といった信用事業などを行っていました。全市域で組織されたことに加え、加入戸数の割合が非常に高いことが特徴でした。

旧平貴産業組合 農業倉庫2棟



① 構造様式：土蔵造平屋建、前室付
建築年代：昭和8～9年築



② 構造様式：土蔵造平屋建、前室付
建築年代：昭和17年築

旧二本木産業組合



事務所
構造様式：土蔵造平屋建
建築年代：昭和17年築

農業倉庫及び事務所



農業倉庫
構造様式：木造2階建 寄棟造
建築年代：昭和30年野田村(刈谷市域)から移築

旧新田産業組合 農業倉庫

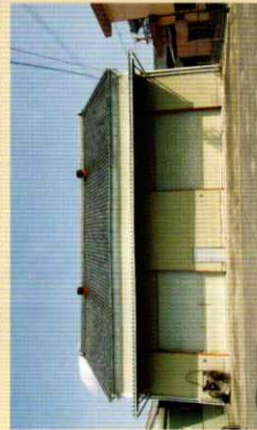


構造様式：土蔵造平屋建、前室付
建築年代：昭和15年築



昭和15年の上棟時の記念に撮影されたものです。この写真から、左の写真の各室の屋根にそびえる煙突状のベンチレーター(換気装置)は、その後の改修の際に取り付けられたことがわかります。

旧赤松産業組合 農業



農業倉庫
構造様式：土蔵造平屋建
建築年代：不明

倉庫及び共同集出荷場



共同集出荷場
構造様式：木造平屋建
建築年代：不明

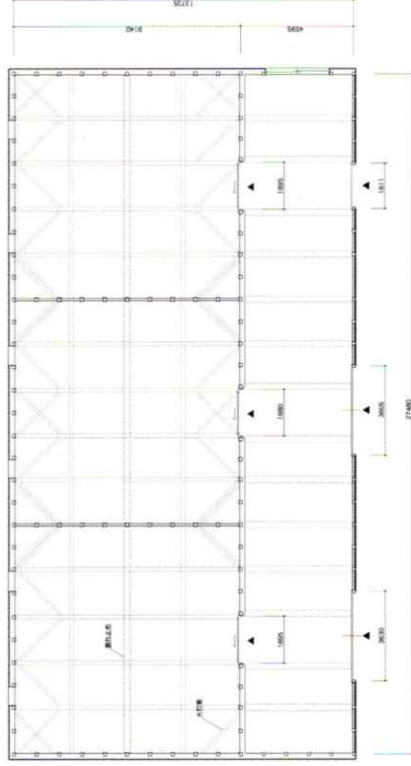
昭和初期に市域に建てられた農業倉庫は、米蔵として建ててられたもので、「日本デンマーク」安城を象徴する建物のひとつです。

産業組合の連合組織として、碧海郡購買販売組合連合会、通称丸碧が大正4年(1915)に安城町に設立されました。丸碧は、郡内の農業の中枢機能を担い、東京向けの鶏卵販売の取りまとめなどを行っていました。それと並ぶ主要事業として連合農業倉庫業が挙げられます。各産業組合の農業倉庫は、丸碧所属の農業倉庫として米穀を保管し、共同で集荷・販売を行っていました。

農業倉庫の内部は、おおむね、5間(一間＝1.818m)四方の倉庫が2もしくは3室並び、正面に2間から2間半の前室が設けられています。

前室部分が鉄骨造の庇のものもありますが、敷居等の痕跡から元は前室付であったことが分かっています。

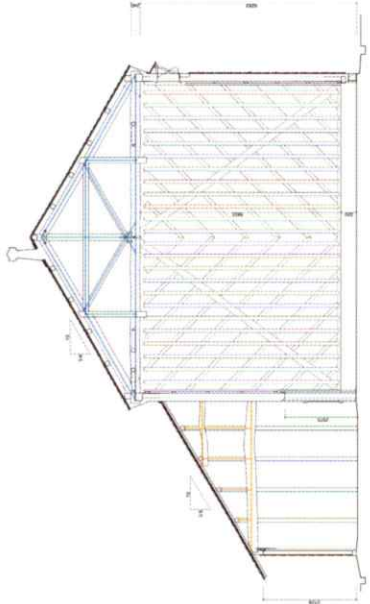
当時は前室で米の検査を行い倉庫各室の両脇に米俵を積み上げて保管していました。



旧新田産業組合 農業倉庫 平面図

農業倉庫の構造的特徴

農業倉庫は、江戸時代から続く伝統的な土蔵造でありながらも、小屋組には三角形を基本に木材を組んだトラスと呼ばれる西洋の構造を取り入れています。



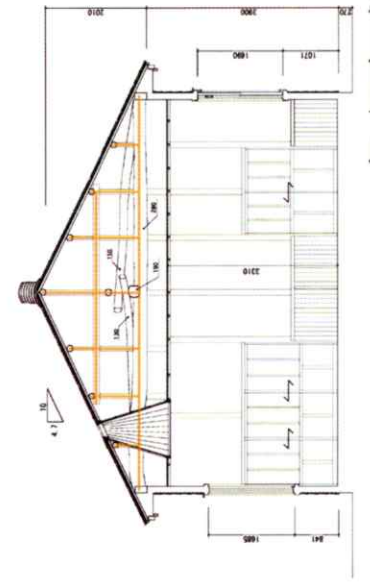
旧新田産業組合 農業倉庫に見る倉庫部のトラスと前室の和小屋 (梁間 断面図)



前室の和小屋



倉庫部のトラス



旧明治郵便局 局舎に見る和小屋 (桁行 断面図)

和小屋のように木材を縦と横に組んだ構造とは違い、トラスは三角形に木材を組み、細い材で屋根の重さを合理的に柱につたえたる構造です。

これにより、従来の和小屋では難しかった部屋の中に柱の無い広い空間をつくり出すことができました。トラスは、もともと橋などに用いられていた構造で、それを建物にも応用し、倉庫、学校の校舎や大きなホールなどに用いられています。

前室は、2間から2間半の幅しかありませんので、トラスではなく和小屋を用いており、倉庫部分に比べて全体の造りも簡素です。

産業組合のその後

昭和14年(1939)戦時体制下における政府は食糧統制のため、米穀配給統制法を制定し米の集荷・配給機構を一元化しました。産業組合は、国の統制機関として集荷・配給機関の役割を担っていきましました。

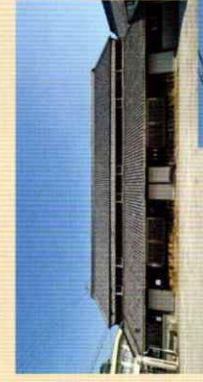
その中、農業団体の統合が促進され、昭和18年(1943)の農業団体法施行の翌年、産業組合は解散され町農会(明治33年(1900)設立の農業の指導・奨励をした農業団体)とともに安城農業会として統合され、各産業組合はその支所となりました。

戦争が終わり、昭和23年(1948)に農業会は解散され、各支所は農業協同組合として発足します。

現存する農業倉庫の一部



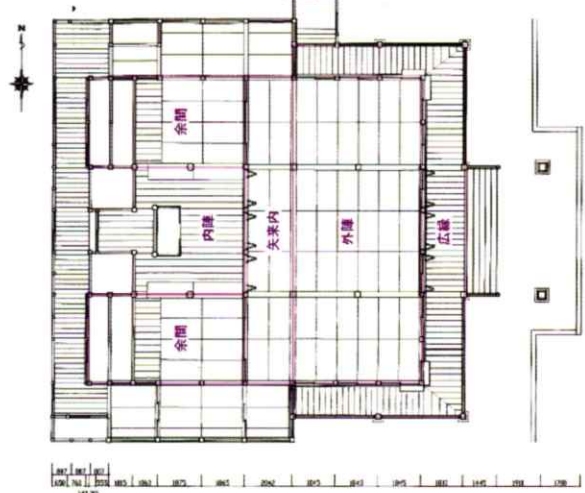
旧東尾産業組合 農業倉庫 昭和10年築



旧福益産業組合 農業倉庫 昭和3年築

文化財悉皆調査 寺院篇

安城市内の寺院建築のうち、明治以前に建てられたものを調査しています。平成19年度は、市内北部の寺院を中心に15件の寺院を調査しました。その中から、一部を紹介いたします。



▲ 願力寺 本堂平面図

横松大工

今回の調査で見つかった棟札のうち、8枚において横松村の大工棟梁の名前が見られ、うち6枚には山本金四郎と記されています。

横松地区は、現在も知多郡阿久比町に存在します。当時の横松村は、土地が痩せて農作物が育たなかったため、出稼ぎで大工をしていた模様で、現在も横松大工という呼称が残っています。県内の他市町村でも、棟札により、西尾市で7棟、豊田市で6棟、岡崎市で1棟、名古屋市中の社寺建築が横松村の大工の手により手がけられていることが報告されています。安城のものと合わせると、山本金四郎という通称の棟梁は、年代順に貞之が6棟、貞次4棟、貞敏3棟みられました。

知多以外の大工では、西尾市の正念寺や岡崎市の甲山寺と同じ、豊川市の牛久保の岡田五左衛門の名前が、円光寺の本堂で見られました。正念寺と甲山寺は5代目ですが、円光寺は7代目の米次郎が手がけています。また、明眞寺本堂は、三好町の小野田又造の手によるものです。

西三河地方では、浄土真宗の寺院が多く、安城市でも約半数が該当します。19年度で調査した寺院においても、浄土真宗の寺院が11ヶ寺を占め、浄土宗が2ヶ寺、曹洞宗が2ヶ寺でした。

松塚山 願力寺 浄土真宗大谷派



常照院存戒を開基とし、応仁元年(1467)に行専により、天台宗から真宗に改宗したと伝えられています。

後世に改築はされていますが、棟札によれば、現在の本堂は、寛政9年(1797)築で、庫裏は弘化3年(1846)築、山門は明治年間築と伝わります。

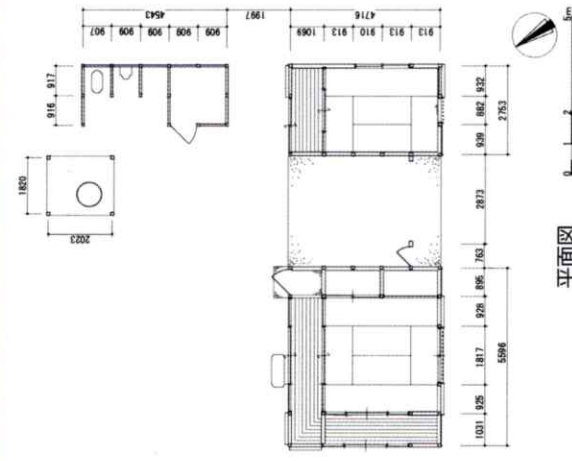
願力寺を含むほとんどの真宗寺院の本堂の間取りは、7、8間四方で内陣、外陣、余間の規模がほぼ一定しています。また、外陣と矢采内を分けており、広縁が外陣側面まで回っています。これは、真宗門徒の増加により、寺院行事が多く開かれたために僧侶や信者が移動する空間が必要だったことなどが理由と考えられています。



願力寺本堂 棟札
寛政9年巳年
尾州横松住山本金四郎貞之

旧新美南吉下宿先

構造様式：長屋門 切妻造 棧瓦葺
東面庇付、北面庇下し



「ごんぎつね」などの童話の作者である新美南吉は、24歳から安城高等女学校(安城高校の前身で、安城高校の移転後、敷地内には桜町小学校があります。)に赴任し、26歳からこの建物に下宿していました。

安城に在住していた頃につくられた作品には、「花のき村と盗人たち」や「おぢいさんのランプ」などがあります。

